

と き 令和8年4月28日(火)

ところ 北部公民館 第1・第2学習室

令和8年調布市公民館運営審議会 第2回定例会速記録

開会 午後2時

○稲留委員長 それでは、定刻となりましたので、これから令和8年調布市公民館運営審議会第2回定例会を開催いたします。

それでは、議事に入る前に定足数について事務局から御報告をお願いします。

○橋本東部公民館主査 本日、欠席者はございません。現時点において、委員9人中、9人の委員が出席されておりますので、調布市公民館運営審議会規則第5条に規定されている定足数に達している状況となっております。

以上です。

○稲留委員長 ありがとうございました。それでは、定足数に達しているということですので、引き続き審議会を進めてまいります。傍聴希望の方はいらっしゃいますか。

○橋本東部公民館主査 4人いらっしゃいます。

○稲留委員長 それでは、入室を御案内ください。

(傍聴者入室)

それでは、引き続きまして資料の確認をお願いいたします。

○橋本東部公民館主査 本日の資料を確認させていただきます。

まずは、郵送でお送りいたしました資料から確認いたします。令和8年調布市公民館運営審議会第2回定例会日程です。次に、資料1、令和8年4月1日付教育部人事異動報告です。次に、資料2、令和8年度調布市公民館職員配置表です。次に、資料3、使用状況報告(令和8年1月～3月分)です。次に、資料4、使用状況報告(令和7年度分)です。次に、資料5、事業報告(令和8年1月～3月分)です。次に、資料6、事業報告(令和7年度分)です。次に、資料7、社会教育委員の会議(令和7年度第5回、第6回)定例会次第です。次に、資料8、公民館利用団体登録(新規)について、折り紙待夢。次に、資料9、公民館利用団体登録(新規)について、朗読の森。次に、資料10、公民館利用団体登録(新規)について、火曜ストレッチ&練功十八法。資料8、9、10については、審議会後、回収させていただきます。

続きまして、本日机上配付しました資料について御紹介いたします。1番、図書館だより2026春号。2番、とうきょうの地域教育No.157。3番、成人学級、まず西部公民館から「ウエストガーデンきらら」「いのちの楽校」「ペンギンテラス」の3点です。そして、北部公民館から「サステナブルを学ぶ会」「Multicultural Study Group」の2点です。

以上となります。

○稲留委員長　　ありがとうございました。皆様、おそろいですか。

それでは、議事に入ります前に、今回の「公民館だより」の記録について、清水委員、お願いできますか。よろしくお願ひします。

○清水委員　　はい。

○稲留委員長　　なお、前回から、審議を円滑に進行するために、ホームページ等での議事録公開時に誰が見ても言ったかきちんと分かるように、理解できるよう、略称を次のおりとしています。

丸山東部公民館長・田野(たの)崎(さき)西部公民館長・小川北部公民館長を氏名プラス館長とすることができることとしますので、御承知おきください。

それでは、日程第1の報告事項からですけれども、まず、4月1日付の人事異動と公民館配置表ですが、関連することなので、丸山館長からよろしくお願ひします。

○丸山東部公民館長　　それでは、(1)令和8年4月1日付教育部人事異動について及び(2)令和8年4月1日現在の公民館職員配置表について報告いたします。

初めに、資料1を御覧ください。こちらは教育部管理職の公民館に関する人事異動の報告です。教育部長に高橋慎一、教育部次長兼教育総務課長に松島修、西部公民館長に田野崎章が新たに着任しています。

なお、北部公民館長の小川香里は昇任となります。

続きまして、資料2を御覧ください。令和8年度調布市公民館職員配置表となります。4月1日付で管理職以外の異動者について報告いたします。

東部公民館には主査に橋本幸枝、北部公民館には主査に倉持美土子がそれぞれ新たに配属となりました。上記以外は昨年度と変更ありません。

報告は以上です。

○稲留委員長　　人事異動については今のような報告になっておりますので、よろしく御承知くださいませ。

それでは、新たに着任されました西部公民館長の田野崎館長から一言御挨拶を。

○田野崎西部公民館長　　市民部から参りました田野崎と申します。よろしくお願ひいたします。

○稲留委員長　　続きまして、東部公民館の橋本主査、よろしくお願ひします。

○橋本東部公民館主査　　4月1日より北部公民館から東部公民館に異動してまいりまし

た橋本と申します。公民館はまだ2年目で不慣れでございますが、皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思います。よろしく申し上げます。

○稲留委員長　それでは、次は、資料3の公民館の使用状況についての報告です。令和8年1月から3月分につきまして、丸山館長、よろしく申し上げます。

○丸山東部公民館長　続きまして、資料3を御覧ください。令和7年度調布市公民館使用状況報告（令和8年1月～3月分）について御報告します。

初めに、1月分です。4ページをお願いいたします。下から4行目、公民館ごとの合計欄を御覧ください。東部公民館においては140単位、1,202人、西部公民館においては126単位、1,537人、北部公民館においては180単位、1,348人の使用がございました。3館合計で446単位、4,087人の使用でした。前年の1月と比較し、東部公民館では15単位の増、31人の減、西部公民館では6単位の減、15人の増、北部公民館では18単位、71人の増となりました。

続きまして、2月分です。5ページをお願いいたします。下から4行目、公民館ごとの合計欄を御覧ください。東部公民館においては146単位、1,221人、西部公民館においては130単位、1,501人、北部公民館においては194単位、1,389人の使用がありました。3館合計では470単位、4,111人の使用で、前年の2月と比較しますと、東部公民館では29単位、35人の減、西部公民館では13単位、196人の増、北部公民館では15単位、24人の増となりました。

最後に、3月分です。6ページをお願いします。下から4行目、公民館ごとの合計欄を御覧ください。東部公民館においては159単位、1,456人、西部公民館においては148単位、1,822人、北部公民館においては192単位、1,440人の使用がございました。3館合計で499単位、4,718人の使用でした。前年の3月と比較しますと、東部公民館では9単位、195人の減、西部公民館では24単位、259人の増、北部公民館では13単位、333人の減となりました。

主な増減理由は、主催事業の増減や新規使用団体の継続使用などです。

説明は以上です。

○稲留委員長　ありがとうございました。今の報告について御質問等ございますか。

（「なし」の声あり）

特になければ、次に使用状況報告ですね。では、これも丸山館長、よろしく申し上げます。

○丸山東部公民館長 次に、資料4、令和7年度調布市公民館使用状況報告（令和7年度分）について御報告いたします。

それでは、2ページになります。下から4行目の公民館ごとの合計欄を御覧ください。東部公民館においては2,000単位、1万7,220人、西部公民館においては1,602単位、2万668人、北部公民館においては2,643単位、2万234人の使用がありました。3館合計で6,245単位、5万8,122人の使用でした。前年度と比較いたしますと、東部公民館では43単位、552人の増、西部公民館では98単位、2,023人の増、北部公民館では277単位、1,965人の増となりました。

昨年度と比べ、単位数、参加人数ともに増となっております。その主な要因として、新しい団体の利用や他の公共施設の代替などが要因と考えています。また、年度を通した3公民館の全体的な考察としては、コロナ禍前の使用状況が戻りつつある時期であり、年を追うごとに活動が活発になっていると考えています。

説明は以上となります。

○稲留委員長 ありがとうございました。今の報告について御質問等はございますか。

（「なし」の声あり）

特になければ、次は事業報告ですね。丸山館長、よろしく申し上げます。

○丸山東部公民館長 それでは、令和8年1月から3月分までの事業報告をさせていただきます。資料5の1ページをお開きください。初めに、東部公民館です。

東部ジュニア教室V「科学あそび～アイスクリームもできちゃう?!水のふしぎ」は、小学生に科学への興味、関心のきっかけ、3館合同事業、宇宙に関する講演会に参加してもらい、公民館を知ってもらい、利用してもらうことを目的に、水をテーマに、学校で習わないような実験を通して感じてもらうため実施しました。

参加者からは、「なぜだろうと考えさせる導入方法が効いていて楽しかったです。子どもたちのペースに合わせた話し方をされていて興味を持ちやすいなと思いました」「アイスクリームを短時間で作れるとは思わず新しい発見でした。おいしかったです。ありがとうございました」など、体験することの重要性が分かった講座となりました。

東部ジュニア教室VI、小学生限定！くつ下春色ダーニング バスケットスティッチ技法でくつ下を繕うは、登録団体も活動している、汚れやほつれなどを隠して、使っていなかった衣服を使えるように手直しするイギリス発祥のターニング、アレンジすればまだ使えるSDGs精神で生まれた技法でありますけれども、独特のデザイン性の特徴の1つで、

かわいいお繕いをしながら、ダーニングの精神に触れることを目的に開催しました。

参加者からは、「自分のぼろぼろな靴下がカラフルできれいによみがえって楽しかったし、面白かった」など、一見難しそうなイメージですが、「楽しめた、面白かった」という意見ばかりでした。

東部市民講座VI「朗読「朱雀門」を読む（下編）～長谷雄草紙より」は、平安京の恋物語、朱雀門を題材に、日本語の発音を意識しつつ、それぞれの場面に応じた朗読の表現を学び、今回が最終回となりました。

参加者からは、「3年間、楽しかったです。終わってしまうのが寂しいです。同じことをお聞きしながら新鮮な気分で参加していました」「自分が平安の都にしばし身をとどめたようでした」「早口言葉をマグネットシートに書いて、お風呂に鏡と一緒に貼っています。湯船につかりながら見えています。分かりやすく、楽しかったです」「朱雀門は女性には難しい題材かと思われましたが、学びがより深く、自分では選ばないところですから、貴重な機会でした」など、3年間を惜しむ声も多くありました。

東部市民講座VII「写真撮影レベルアップ講座」は、独学の方が光の使い方、伝わる写真の撮り方を座学、実践で学び、自分らしい撮影方法を伸ばしながら、見ている人に伝わる技術をつかんで、撮影技術をワンランクアップさせ、講師や仲間と学ぶ楽しさを感じてもらい、東部フォトクラブの会員獲得につなげることを目的に実施しました。

参加者からは、「とても勉強になり楽しかったです。いつか自分の作品をたくさん撮って家じゅうに飾りたいなどと夢を描いております」など、楽しさを発見された方が多数いらっしゃいました。

東部新春コンサート、東部公民館50周年記念「祝福～今ここにはいないあなたと一緒に」は、開館50周年を記念して、桐朋学園大学出身のDuo-leaf（デュオ・リーフ）が数年ぶりに登場。出会った方、別れた方、それぞれ思いを抱えて東部公民館の歩みと重ねながら、人とのつながりの物語を音楽で振り返りました。

参加者からは、「司会、笑いあり、ピアノの音とフルートのきれいな音色にとっても心が洗われます」「初めて参加させていただき、また機会がありましたら参加させていただきたいと思います」「音楽は全く分かりませんが、楽しいお話と曲で、とても楽しいひとときでした」「80歳過ぎのおばあさんもとても楽しめました。もう帰れなくなった福岡市で生活したこと、懐かしく思い出しました。海がとってもきれいな地です。涙が出てしまいました」など、初めての方も多く、年代も幅広いなど、全ての垣根を越えたすばらしい年の始

まりの企画となりました。

平和事業Ⅱ「終わりなき核被害～マーシャル諸島とビキニ事件」は、昨年は終戦80年、1954年3月1日、日本のマグロ漁船、第五福竜丸の乗組員23人は、マーシャル諸島ビキニ環礁で放射性物質を大量に含んだ死の灰に触れ被曝し、犠牲者2万人とも言われるこのビキニ事件、世界に核の脅威を広げることになりました。2人の専門家と共に、未来に何を残せるのかを一緒に考えることを目的に開催しました。

参加者からは、「人間同士、なぜ戦争しなくてはならないのか、重要な課題です」「今日のお話を聞き、まず帰って家族に語り、周りの人たちにも伝えていくことが大事だと実感しました」など、70代、80代の方からの感想は、これからの世界を憂う内容が多くありました。

シルバー講座Ⅱ「仙川周辺～学び・歩き」では、地元仙川の歴史を学び、教科書にも登場する人物のゆかりの地を歩いて確かめてみる講義と散歩がセットになったシニアのための地域講座で、地域への理解と地元シニアの交流を深めることを目的に実施しました。

参加者からは、「仙川に住んで40年から50年、何も知らなかった」など、散歩によって仙川の新発見に驚いた感想が大半を占めていました。

シルバー教室Ⅲ「自分で作ってみたいミニレザーバッグ」は、女性が参加する傾向にある教室で、男性にも関心を寄せ参加していただくよう、皮革細工を取り上げ、館近くに工房を構える店主を招き、皮革の扱い方や細工の仕方を学び、地域の方とも交流することを目的に実施しました。

参加者からは、「自分でバッグを作るなんて、民間主催の教室に行かないとできないと思っていました」「初めは大変でしたが、できれば続けたいと思います」など、このような機会を待ちわびていたとの感想が多くありました。

家庭教育講座Ⅱ「パパといっしょにリトミック～リズムにあわせて冬あそび」は、音楽を通した親子の触れ合いの機会を男性対象に実施することで、男性の育児参加を促進することを目的に、冬をテーマに開催しました。

参加者からは、「娘の成長が見られる」「一緒にダンスして楽しめた」「家でもやってみたいです」といった感想が多かったです。

国際理解講座「アメリカのいちばん長い戦争～「対立と分断」の源流」は、昨年、ベトナム戦争終結70年、帰還兵のPTSD、プロパガンダなどの情報問題、戦争後のアメリカ国内では学生の反戦運動を中心に対立が激しくなったという、こうした分断がどのように

アメリカという国に影響を与えてきたのか、マスメディアの在り方に注目しながらひもとくとともに、戦争を引き起こさないための教訓について考えることを目的に開催しました。

参加者からは、「改めて今の世界状況の背景が少し分かった気がします。ベトナム戦争、イラク戦争、イラン戦争」と70代、「現在の情勢との関係性を考えながら内容を理解していくのが、駆け足で進んでしまっていた。かつ、あまり勉強してこなかった範囲の内容だったものの、興味深く聞くことができました。これからの若者が考えていかなければならないという話が心に刺さりました。知見を深めていきたいと思います」と20代など、現在でも戦争が行われていることを再認識し、今後を考えていく機会となりました。

企画展Ⅴ、東部公民館50周年記念企画展「東部公民館～支えてきた講師たちの作品展」は、初めてとなる公民館活動を支えてきたサークルや事業の講師が一堂に作品を展示しました。

企画展Ⅵ、東部公民館50周年記念お年賀企画展「ちょこぼんへの年賀状～カレンダーをGETしよう！」は、ちょこぼんへの年賀状を募集し、展示しました。応募者には特製ちょこぼんカレンダーを差し上げました。

企画展Ⅶ、東部公民館50周年記念サークル合同展「東部公民館サークル★Winter展」は、講師の指導の下、腕を磨いたサークル会員たちが一堂に作品を展示しました。

企画展Ⅷ、平和事業関連企画展「マーシャル諸島の子ども達～隠された“楽園”と核被害」は、平和事業に関連して、島民の被曝や離島の問題など、現在も続く社会問題を抱える側面を島民の写真、パネルや解説から人権や文化の消失についても考えてもらうため、展示しました。

会議及び広報は記載のとおりです。

50周年記念誌編集会議は、2年間の最後の編集会議で、本日、委員の皆様にご持参いただいた「とぶと～ぶ」のお披露目の日となりました。東部公民館開館50周年記念誌「とぶと～ぶ」の詳細は後に説明いたします。

東部公民館は以上です。

○稲留委員長　今回から公民館ごとの説明の後に御質問いただくことにしますので、今の説明に対しまして御質問ありましたら、どうぞ。

○清水委員　確認なのですが、4ページ以降は、項目に事業名、実施日、内容、定員、申込人数、参加者、保育とあるのですが、東部公民館の事業報告の中にはそれが見られないので、それは同じと認識してよろしいかどうか確認です。

○八田副委員長 表頭の部分が消えてしまっているのです。

○丸山東部公民館長 記載漏れです。

○清水委員 では、4ページからの西部公民館に準ずるということで認識させていただきます。ありがとうございます。

○丸山東部公民館長 ありがとうございます。

○稲留委員長 ほかにございますか。では、川上委員。

○川上委員 いろいろな事業、ありがとうございました。1つ、あっと思ったのは、シルバー教室でミニレザーバッグ、これ、10人のところ35人も申し込まれて、しかも地域の革工房さんが指導ということで、地域の方を呼んでやるので、とても面白かったのだらうと思ったのですけれども、この方たち、継続してやりたいとか、そのような声はどうだったのでしょうか。サークルまでは難しいかもしれませんが、お聞きしてもよろしいですか。

○稲留委員長 どうぞ。

○丸山東部公民館長 非常に高い人気がありまして、ちょうどこの時期に某ブックメーカーが同じようにテレビのコマーシャルをやっていて、非常にタイムリーな時期でもありました。やってみて楽しかったというお声がありましたけれども、まだ継続までには至っていないようなところであります。料金も随分お安くしていただいたところもありましたので。ただ、西部さんは実際、革のサークルとかあったりとかするので、そこら辺も見据えてというか、できればいいかなと思います。

○川上委員 ありがとうございます。

○稲留委員長 ほかよろしいですか。どうぞ。

○八田副委員長 私から2ページの内容の中で、国際理解教育の側で、会場を入れていただいているので、実施は学習室だと受け止めています。申込みが28に対して参加可能になったのが40ですよ。なので、定員の考え方というのかな、なるべく順応できるように、応募の定員を上回る受けをつくっていただいたのだらうと思います。なので、大変いいことではあるのですが、そう考えると、そもそもの定員は、もう少し広げておいてもいいのではないかなというのが提案の1つです。

なぜかという、40人受けられたということで、1ページのほうを見ると、最下段に同じように平和学習の関係があって、ここも28人、これは申込みが29だったので、1名プラスであります。成人教育の一番上、東部市民講座は20人の定員のところ22人だったりし

ていますから、弾力化を図ると全員受講できるような内容でもあるのだらうと。そうすると、定員をもう少し弾力化を図って募集をかけてもいいのだらうと思いますので、次年度に向けて御検討いただければよろしいのではないかなと思いますので、よろしく願います。

○稲留委員長 丸山館長。

○丸山東部公民館長 貴重な御意見ありがとうございます。専門員が、どのコンテンツに人数が多く申し込まれるかというのはなかなか見えないところで、広げてしまって、申込みが少ないというイメージになるのも何かはばかられるみたいなどころもあるので、このところは今後検討していければと思います。

○八田副委員長 おっしゃるとおりで、どのような設定をするのかというのは、コーディネーター側の裁量でもあると思います。ただ、マンツーマンで学習をしたりという点で考えると人数は限られるでしょうし、受講できるような講座的なものに関しては、キャパはいっぱい取って募集をかけるというのも、それは1つの考え方だと思いますので、ぜひいろいろな考え方でやっていただければと思います。よろしく願います。

○丸山東部公民館長 ありがとうございます。

○稲留委員長 下釜委員。

○下釜委員 これは定員が28で申込みが47ということですね。これ、申し込んだら定員いっぱいだというので私も断られたのですけれども、やはりこういうタイムリー、時事的な企画というのは集まりがいいのだなという印象を受けます。随分前から準備されたと思うのですが、専門員の方の努力に感謝したいと思います。

以上です。

○丸山東部公民館長 ありがとうございます。

○稲留委員長 よろしいですか。では、清水委員。

○清水委員 1点だけ、これは東部だけではないと思うのですけれども、子ども・若者、子育て世代への発信という部分について、たまたまここに小学生対象であったり、子育て世代、特に男性の育児参加ということで企画が組まれております。こういったことは「公民館だより」で発信というのは分かるのですけれども、御高齢の方々にしてみれば、往復はがきがいいというお声も過去にもありましたが、子ども・若者、子育て世代はSNS発信が当たり前ようになってきている中で、こういった企画をどうやって発信して参加者を募るかという部分では何か検討とかはされているのかどうなのか。今、下釜委員がおつ

しゃったように、せっかく企画をして、抽選になって来られない人もいる中で、定員を満たさずにまだ余裕があるというのはもったいないと私は思っているので、その辺りをお聞かせいただければと思います。

○稲留委員長 丸山館長。

○丸山東部公民館長 もちろん「東部公民館だより」を近隣の小・中学校に配付する、ホームページ上で周知をするということに加えて、直近では、徐々にではありますけれども、L o G o フォームを使って登録ができるような方式も少しずつ始めています。SNSというのは幅広い、日々いろいろな手法がありますので、その部分は少しアンテナを高くして対応していければとは思っています。

以上です。

○清水委員 これは西部、東部、北部でそれぞれ発信をしていくのか、何かまとめて公民館として発信をしていくのかというところは、今の御答弁では分かりにくいと思いましたが、これから努力されるのだと認識しております。

L o G o フォームによる申込み、ネットを通じて申込みができるということは非常に利便性が高いものと評価できるのですけれども、ここにたどり着くまでがやはり課題かなと思いますので、検討していただいて、SNS発信なども含め、どうやって子ども・若者、子育て世代に情報を届けていくかというのを引き続き御検討いただきたいと思います。

以上です。ありがとうございます。

○稲留委員長 よろしいですか。

○丸山東部公民館長 SNSは、ツイッターだったりとか様々な広報媒体を使ってやっているところではありますけれども、もう少し手厚くだったりとか、そういうものがしていければと思います。

以上です。

○稲留委員長 ありがとうございます。

それでは、次に西部の田野崎館長からよろしく申し上げます。

○田野崎西部公民館長 続きまして、西部公民館の1月から3月までに実施いたしました事業について説明いたします。資料の4ページをお願いいたします。

初めに、青少年教育です。子ども料理教室Ⅲとして「日本の食文化を体験！パンダの『絵巻き寿司』を作ろう」を実施しました。飾り巻き寿司作りを通して、日本の巻きずしの文化を知ってもらい、楽しみながら伝統を大切に作る心を育む機会として実施しました。

参加者からは、「いえにくる人につくってびっくりさせたい」「楽しくておいしかった」などの感想をいただきました。

次に、子ども科学教室として「光と虫めがね、そして光のスペクトルと原子」を期間中に3回実施しました。問いに対して仮説を立て、実験結果を自分で予想し、実験で答えを導く、体験しながら学ぶ好評の講座です。今回は「遠くのものを見てみよう（望遠鏡づくり）」「原子とスペクトルの関係をしらべよう」など自由に体験する楽しさを知る機会となりました。

参加者からは、「レンズを逆にしたらどう見えるかの実験が楽しかった」「実際に虹ができる原理が分かった」等の感想をいただきました。

次に、こどもと大人の天文学教室として「夜空を見上げてみませんか？ 宇宙に広がる世界へ一緒に」を全2回で実施しました。宇宙の不思議について、シミュレーターを使いながら学び、子どもから大人まで一緒に学べる内容としました。実際に館庭に出て観望を行うことで、天文学の面白さに触れる機会として実施しました。

参加者からは、「望遠鏡で見た木星の3本線が見られて面白かった」「宇宙の大きさを改めて感じた。小さなことは気にせず生きていこうと思います」等の感想をいただきました。

次は、成人教育です。初めに、コミュニティカレッジとして「今の時代の生き方を考える～暮らし・世界・自然を見つめて」を全3回、経済や世界、地域や自然との関わりなどから、この時代をどのように生きていくかを考える機会として実施しました。③の「足元から考える、自然との関わり」の講師、渋沢寿一さんは、実業家、渋沢栄一のひ孫で、渋沢栄一の生涯をひもときながら解説をしていただきました。

参加者からは、「生き方を考えるコミュニティカレッジ、3回受講しました。最終回で、今の時代、生き方を考えさせられる中身の濃いすばらしいお話でした。この方を講師として選んでくださった職員さんに感謝します」等の感想をいただきました。

次に、歴史講座Ⅲです。調布市制施行70周年記念事業、調布再発見講座「聞いて、見て、歩いて知ろう『深大寺城』」として、座学と現地見学を行いました。文献資料や発掘調査などにより明らかになった歴史的、文化的価値などを学び、ふるさと調布への理解を深め、愛着を育む機会とするために実施しました。

参加者からは、「調布に60年以上住んでいて初めて深大寺城の学習をして、とても歴史的に貴重なことを知る一歩となりました」等の感想をいただきました。

次に、5ページをお願いします。美術史講座です。「見方が分かる！仏像と工芸品にみる日本の美～入門編」として「仏像の見方の基礎を学ぶ」「陶磁器や漆器から読み解く、日本と海外の文化交流」を全2回で実施しました。博物館などに展示されている仏像や工芸品について、鑑賞するポイント、時代の特徴、当時の文化交流などを学ぶ機会として実施しました。

参加者からは、「次回から仏像展に行くのが楽しみにになりました」等の感想をいただきました。

次に、世界の料理教室では、「スパイスの国パキスタンの家庭料理」を実施しました。在日パキスタンの方から、家庭料理を学びながらパキスタンの食文化や暮らし、価値観などへの理解を深め、講師との交流を通じて多文化共生の理解を深める機会として実施しました。

参加者からは、「初めての料理に出会えて大変楽しく参加できました。ありがとうございます」「食を通して世界が平和になってほしい」等の感想をいただきました。

次に、コンサートⅡとして「解説付き新春ロビーコンサート『言葉と音楽の世界～音の手紙を受け取ろう』」を実施しました。講師の解説とメゾソプラノ、ピアノ演奏を組み合わせることで、曲の背景や意図の理解を促し、初心者にも分かりやすく楽しんでもらう機会として実施しました。

参加者からは、「音楽の歴史を楽しく学びながら、間近にメゾソプラノの歌声を聞くことができ鳥肌が立ちました」などの感想をいただきました。

次に、成人学級です。成人学級は、それぞれ自主的に企画、運営し、相互学習による活動を行っています。

「ウエストガーデンきらら」は、花壇のメンテナンス、植えつけなど、それぞれにテーマを定め、公民館の緑地を活用しながら緑化技術の習得を進めています。この期間、6回の活動を行い、館外学習や味スタ、緑の広場の堆肥システムの見学、次年度計画の話合いなどの活動をしました。

次の「いのちの楽校」は、命を大切にするという大きなテーマを掲げ、幅広い学びを楽しく進めております。この期間に3回の活動を行い、そのうち⑨では、公民館としてもサポートした公開講座「『大切ないのち』を交通事故から守るポイント」について、調布警察署の方からお話を伺いました。また、4月から導入された自転車の交通反則通告制度についても説明いただくなど、学級メンバー以外にも地域の方の参加も含め実施することが

できました。

次の「ペンギンテラス」は、この期間に3回の活動を行いました。「子育て、母親の人生を彩りよくする」をテーマに学習を進め、情報を共有しました。⑩公開講座「里親について知ろう～社会で子どもを育てるということ～」は、成人学級の活動を始めて最初の公開講座となりました。学級メンバー以外にも地域の方々の参加も含め実施することができました。

次は、家庭教育です。家庭教育講座Ⅱとして「親子で楽しむ絵本のちから～絵本からはじまる、あたたかな子育て～」を全2回で実施しました。コロナ禍以降、絵本のよさが見直されていますが、環境によっては絵本が1冊もない御家庭もあり、子どもだけでなく、大人も楽しめる1冊を見つけるきっかけとして事業を実施しました。また、ミニ絵本の作り方を教わりながら、子どもと一緒に作り上げる楽しさを体験してもらいました。

参加者からは、「絵本の裏側を聞くことができ心がワクワクする気持ちを思い出すきっかけになった」「もっと絵本を楽しみたいという気持ちがどんどんでてきた」等の感想をいただきました。

次に、国際理解教育です。国際理解講座Ⅰとして「戦争と平和 トランプ外交は和平をもたらすか？」は、単に講義を聞くだけでなく、参加者が自分のこととして考える場面のある内容とし、全2回を実施しました。

参加者からは、「吉崎先生の講座のスタイル、参加型に大変興味を持ちました。来年もこの続きをお願いします」等の感想をいただきました。

国際理解講座Ⅱとして「つくる人と食べる人のいのちや自然を守る取り組みについて考えてみよう」は、小学生までの子どもと保護者を対象に、バナナをテーマに、生産国の取組や食卓に届くまでの流れを学び、また、フードロスについても考える機会として実施しました。

参加者からは、「日本に輸入されるバナナの育て方、運ばれ方などを初めて知ることができた」「破棄されるバナナが減っていくといいなと思う」等の感想をいただきました。

次に、展示会です。ロビー展として、この期間に4つ開催しました。

まず、市制施行70周年記念、郷土博物館企画展「写真でたどる 調布のおもいで」では、昭和から現在までの調布のまちなどの写真を展示し、併せて西部公民館利用者から昔の調布の写真や絵画を提供してもらい、ともに展示しました。70年の調布市の歩みを知ってもらい、郷土愛を育んでもらう機会として実施しました。

次に、「折り紙で彩る 年の瀬と新春」では、和の文化と手づくりの温かさを感じてもらう機会として実施しました。年末年始をテーマに、見応えのある作品を展示し、干支や正月飾り、折り紙のワークショップにより、来館者に季節感と創作の楽しさを感じてもらい大変好評でした。

次に、市民協働企画ロビー展 三小地域学校協働本部共催「第三小学校6年生作品展『ずっとかく絵』」を実施しました。第三小学校6年生の絵画作品80点を展示しました。

次に、「鹿島学園高等学校調布キャンパス イラストゼミ作品展」を実施しました。本展示は、鹿島学園高校より、イラストゼミ生徒の学習成果の発表を展示したいとの申出があり、2年前から引き続き実施しております。今年度は8点の作品の展示となりました。若い世代の作品を間近に見る機会として貴重な展示であることから、今後も継続したいと考えています。

次に、会議です。西部公民館利用団体連絡会の役員会、館外研修会が実施されました。館外研修会は金笛しょうゆパーク、川越伝統的建造物群保存地区等の見学を17団体の参加で実施しました。

最後に、広報です。「西部公民館だより」、令和8年1月号から3月号まで、毎月発行いたしました。

説明は以上です。

○稲留委員長 ありがとうございます。では、ただいまの御説明について御質問はございますか。では、松浦委員。

○松浦委員 この中のロビー展の⑧折り紙の展示なのですが、これは今のお話ですと、中で折り紙教室みたいなのも簡単なことをおやりに。

○田野崎西部公民館長 教室というか、体験教室的なものだと聞いております。

○松浦委員 スペースとか、どのように案分されたのかなと思ひまして。

○田野崎西部公民館長 西部公民館は、ロビーがかなり広いので、ロビーでの対応だと伺っています。

○松浦委員 それは事前申込みではなく、その場でという。

○田野崎西部公民館長 はい。

○松浦委員 承知しました。ありがとうございます。

○稲留委員長 よろしいですか。それでは、どうぞ。川上委員。

○川上委員 田野崎館長は4月にいらっしゃっているので、終わったものについては体

験をなさっていないとは思うのですけれども、最初、自己紹介、お名前だけ聞いたのですが、実際こういう事業をやっていたというのをどのように思っているのかなというのをちらっと聞かせていただければ。

○稲留委員長 田野崎館長。

○田野崎西部公民館長 4月に着任したばかりなので、大変幅広いテーマを扱っていらっしゃるって、対象の世代、年代も様々ということで、バランスよく、あと限られたスペースと予算の中で対応しているということで、こんなに多くのものを取り扱っているとは着任するまでは思いは至らなかったというか、今、日々勉強するような形で、教えていただきながらやっております。

○川上委員 ありがとうございます。

○稲留委員長 よろしいですか。では、松浦委員。

○松浦委員 質問が不適切でした。申し訳ありません。配慮が足りず、申し訳ありませんでした。

○稲留委員長 それでは、よろしければ、北部の小川館長、よろしくお願いします。

○小川北部公民館長 続きまして、北部公民館です。令和8年1月から3月に実施した事業を御説明いたします。

初めに、青少年教育です。資料5の8ページの最上段をお願いします。

青少年体験教室Ⅳとして「中学生・高校生向けモコモコ手芸の会～自分だけのコースター作り」を実施しました。後に報告させていただきますが、「起立性調節障害の診断と理解」の家庭教育講座Ⅲの実施日時と併せて実施しました。前回は12月下旬に単独で実施し、参加者が0人ということでしたので、今回は別事業と同時開催としてしました。結果としては1人の参加でしたが、講師の青少年育成を目的とした奉仕活動として行うという意思が示されている事業になりますので、今年度は他課連携がもしかしたらできるかもしれないというところで相談してみようと考えております。

次に、子どもアニメーション映画会として、文部科学省選定作品 馬が主人公の映画、『スピリット～スタリオン・オブ・ザ・シマロン』～子どもの考える・感じる脳を育てよう！～を実施しました。動物にも感情があることや、人間が与えている影響を感じてもらうことにより、動物への接し方に配慮できるよう、また、子ども同士や親子と一緒に鑑賞することで交流する機会をつくること、子どもの考える・感じる脳のトレーニングの一助とするなどを目的として実施しました。馬は言葉を話さず、鳴き声、表情、しぐさで場面

の意味を読み取り、馬とインディアンの若者との温かい友情、家族愛、困難に負けない勇気などがテーマとなっており、保護者が涙を流している場面もありました。「面白かった」「このような良い映画を知るきっかけをくださりありがとうございました」などの感想がありました。

続きまして、成人教育です。文化講演会として「旅をしている気分になる！世界遺産講演会～達人のおすすめ5選と旅を楽しむコツ～」を実施しました。様々な事情で世界を旅することができない方には、旅をしているかのような気分を味わっていただき、海外へ出る勇気がない、世界遺産を見に行きたいという思いはあるが、なかなか実現できずにいる方には一歩踏み出すきっかけづくりとすることなどを目的としました。講師には、NPO法人世界遺産アカデミー認定講師の渡邊圭さんを迎え、世界遺産の基礎知識の解説、登録される条件や登録数、種類など、参加型のクイズを交えながらの講演で、後半は講師が訪れた推薦する世界遺産を写真や地図を見ながら紹介し、旅を楽しむコツも学びました。

参加者からは、「世界遺産の見方が変わりました」「旅に出たくなりました」などの声がありました。

次に、科学講座Ⅱとして「〈天文学と工作実験〉天体望遠鏡を作って月のクレーターを眺めよう！」を実施しました。前回実施した際に、大人の方から望遠鏡工作に参加したいという声があったため、今回は子どもから大人までを対象に広く募集しました。大半は親子での参加であり、室内で天体望遠鏡の工作を行い、観察についての注意点の説明を受けました。その後、宇宙のシミュレーターを使用して、宇宙の構造や冬の星空、惑星や銀河系の距離についてなど、宇宙の果てまで旅をするように学ぶことができました。暗くなり始める時間帯には上ノ原公園に移動し、各々が工作した天体望遠鏡で自由に月や星を観察しました。親子での工作や公園での観察は、親子交流の良い機会になったように感じました。望遠鏡で月のクレーターや星を捉えることができた時には、大人も子どもも歓喜の声を上げていました。

次に、文化教室Ⅳとして「初心者向け書道教室～基礎をマスターして書初めに挑戦」を実施しました。課題練習し、課題を添削することで、参加者の学びの意識が高まり、1つの作品を完成させることの喜びや書道をみんなで学ぶ楽しさを体感されたようでした。また、最終回には課題を展示発表し、作品を見ながら褒め合うなど、会話が弾んでいました。この事業は、北利連役員の1人から書道サークルを作りたいという意見があり、今回の事業を市民と共同で企画し実施することにした事業で、公民館専門員にとってもよい経験と

なり、今後の事業でも実現可能な範囲で市民との共同での事業を実施していくことも考えております。

なお、この事業を契機として、この後も学びを続けたいという声が複数人から上がり、書道サークルが発足し、2月から活動を始めております。

続いて、文化教室Ⅴとして「自分を表現してみよう！はじめての演劇教室～演出家に学ぶ、台本の読み方から小さなシーンを演じるまで～」を実施しました。講師には、演出家、劇作家、調布市せんがわ劇場ディレクターの栗原秀一さんを迎え、10代から80代までの男女15人が集まりました。教室の始まりにゲームを交えた交流を行い、気分が和んだところで、講師が準備した題材を基に、小グループに分かれて考え、話し合い、創作、表現、演技実習、フィードバックなどを行いました。初回時は緊張気味だった参加者も、回を重ねるごとに信頼関係が築かれ、最終回には題材を基に、小グループごとに演劇を作っていくというところまでを話し合いながら時間内にまとめ、斬新で面白い表現の演劇が発表されました。

参加者からは、「それぞれの年齢も知っていることもばらばらで、あまり関わることがない人たちと関わり、1つのことをやっていくのが楽しかった」等の声がありました。

続きまして、8ページから9ページにわたりますが、成人学級です。

まず、「サステナブルを学ぶ会2025」では、6回の活動がありました。そのうちの1回は、後に報告いたしますが、「飽食の時代とごみ問題～手に入れて、手放すまでを配慮するということ」と題して公開講座を実施し、食品ロス等について学びを深めました。

次に、9ページの成人学級「Multicultural Study Group」です。3回の活動があり、そのうちの1回はフィールドワークで横浜へのバス研修を実施し、JICA横浜、横浜税関資料展示室等を係員の解説つきで見学し、質問をしながら新たな知見を得る貴重な機会となりました。

この2つの成人学級は、5年間の活動を終え、今後はそれぞれ任意団体として活動を継続する予定と聞いております。

次に、平和事業Ⅲとして「私たちの街にも戦争があった～調布・三多摩でも作られていた風船爆弾」を実施しました。地域が関係する戦争の歴史を知り、今ある平和の大切さを市民と共に考えることを目的とし、北部公民館そばに昭和初期にあった日本針布（株）の工場で作られていた風船爆弾や、その製造に地域の女学生が動員されていたことなど、残された資料や証言を基に調査したことを郷土史研究家の古橋研一さんが報告され

ました。参加者の中には中学生もおり、「少しのことしか知らなかった風船爆弾についてよく知れたとともに、平和について考えるよい機会となった」などとアンケートのほうには書かれておりました。

続いて、コンサートとして「市制施行70周年記念事業 心でめくる音楽アルバム～ピアノとマリンバの調べ」を実施しました。優しくて温かな音色のピアノとマリンバの生演奏と読み聞かせ、時には、おもちゃのピアノを使ったユーモアのある演奏も行い、終始和やかな雰囲気にも包まれた会場でした。野川、深大寺、調布のお祭りをイメージして作曲したという演奏者による市制施行70周年記念曲を初披露してくれました。この記念曲については、今後、北部公民館の様々な場面で流していきたいと考えております。

次に、高齢者教育です。いきいき講座Ⅲとして「シニア向けゆっくり歴史散歩～武蔵府中の古墳を探ろう」を実施しました。講師に日本史研究家の落合大海さんを迎え、古墳がつくられた時代の始まりから、多摩川流域にある古墳の特徴や分布の様子、造られた時代について、また、府中にある上円下方墳という全国的にも珍しい形の古墳や多摩の古代史についてなども学びながら歴史散歩することができました。

参加者からは、「地理を見ながら歩くと当時の様子や風景がイメージできる」などの声がありました。

続きまして、家庭教育です。家庭教育講座Ⅲとして「起立性調節障害の診断と理解～家庭での対応、学校にお願いしたいこと、今地域でできること～」を実施しました。これは神代中学校の学区域を中心に活動している起立性調節障害親の会、手のひらドロップスとの共同企画で、講師に小児科専門医の田中大介さんを迎えて、起立性調節障害の概要、治療と対応、当事者やその周囲の人へ伝えたいことなど、この病の解説と関わり方を学ぶことで、地域での課題共有及び青少年を育てる家庭の精神的負担を軽減していく講座となりました。

次に、国際理解教育です。国際理解講座Ⅱとして「2025年、揺れる中東地域から見えるもの～パレスチナ、イスラエル、シリアほか」を実施しました。メディア等からだけでは得られない情報や、また、その情報を見分け、理解し、平和構築のための視座を得るために実施しました。この1年の動乱の中で見えてきた中東地域の課題について解説しました。

続きまして、展示会です。先に報告しました文化教室Ⅳ「初心者向け書道教室～基礎をマスターして書初めに挑戦」の参加者の作品で13点を展示しました。

その下の「小学生書初め展」では、健全育成推進上ノ原地区委員会主催による書き初め

大会に参加した児童の書道作品、47点を展示しました。

その下の展示は「市制施行70周年記念事業 上ノ原まちづくりの会共同企画 上ノ原“坂”ものがたりMAP&写真展」で、上ノ原まちづくりの会が約20年をかけてまとめた地域の昔の風景、解説を網羅した手づくりの地図、収集した写真など84点を展示しました。手づくりの地図は3つのテーマで作成されました。

続きまして、10ページをお願いします。連携事業です。地域連携事業VI「市制施行70周年記念事業 上ノ原まちづくりの会共同企画上ノ原思い出ぼろぼろトーク会」では、上ノ原まちづくりの会が選出した地域住民の方がパネラーとなり、特に調布市制が施行された70年前の上ノ原地域の暮らしに関わる思い出話を聞きました。参加者からも数々の思い出話が話され、新たな事実や子どもの頃から疑問に思っていたことが解決するなど、和やかな雰囲気、事業終了後も歓談している様子が見られ、よりこの地域のことを理解することができたように感じました。

次の地域連携事業VIIとして、市民の暮らし講座「成人学級サステナブルを学ぶ会2025共同企画 飽食の時代とごみ問題～手に入れて、手放すまでを配慮すること」を環境カウンセラーの江尻京子さんを講師に迎え実施しました。調布市の食品ロスの量は、1日1人当たり20グラムで、これは直径7センチ程度のお煎餅2枚分相当を毎日捨てていることになるとのことで、この食品ロスの原因の1つである賞味期限を企業がどのように決めているかについて解説されました。捨てずに食べ切るという意識を持つだけでも食品ロス削減につながるという話や、食品の容器包装はほとんどがプラスチック製のため、環境負荷がかかる問題があり、近年では紙の容器にするなどの取組が世界的に広がっているなど、私たちの暮らしをどう変えていけばいいのかを意識できる講座となりました。

次に、地域連携事業VIIIとして「市制施行70周年記念事業 上ノ原まちづくりの会共同企画 上ノ原“坂”ものがたりを歩こう」を実施しました。展示室で展示していましたがMAP&写真展で紹介されている様々な坂道や古道、史跡を歩きながら紹介しました。解説は公民館専門員が行い、内容はあまり専門的になり過ぎないように配慮いたしました。

参加者からは、「この地域の特徴がよく理解できるコースだった」「新しい発見があって良かった」などの声がありました。

次の会議、広報については記載のとおりとなります。

北部公民館からの説明は以上となります。

○稲留委員長 ありがとうございます。では、今の御説明に対しての御質問ございま

すか。松田委員。

○松田委員　　今、長時間にわたりましてお聞きしていただき、非常に疲れるのですが、もう少し絞っていただいて、特に好評だったものとか、実施した結果、期待はずれだったとか、焦点を絞っていただいて発表していただいたらどうかと思うのですが。

○稲留委員長　　いかがでしょうか。小川館長。

○小川北部公民館長　　分かりました。工夫してまいりたいと思います。

○稲留委員長　　では、清水委員。

○清水委員　　先ほど申し上げた子ども・若者、子育て世代ということで、2月22日の青少年体験教室と家庭教育講座をセットにしてやってみたところという率直な御説明をいただいたのです。これをまたさらに改善するために、ほかと連携みたいなお話もあったのですが、恐らく親が講座を聞きに来るから、中高生の子どもと一緒に来るだろうという想定がされたのだと思うのですが、なかなか中高生となると、自分たちで活動してしまうのかなというところがあります。

御提案なのですけれども、例えば中高生、ヤングアダルト世代、YAと図書館で言われていますけれども、図書館は今、YA世代に非常に力を入れているところ。だから、図書館と連携して情報を発信していくなども考えられるかなと思っていますが、先ほどおっしゃった連携という部分をどのようにお考えになっていらっしゃるのかお聞きしたいと思います。

○稲留委員長　　小川館長。

○小川北部公民館長　　講師の方が青少年育成を目的としたいというお気持ち強い部分もありまして、起立性調節障害の講座のときも、実際、中高生も来るのですけれども、手芸のほうにわざわざ寄ってということせず、講座を聞いて帰ってしまうという状況になっています。不登校の子どもだったり、そういった子どもにも、こういう手芸を1つやることで、完成する喜びだったり、何か自分で夢中になれるものを見つけてくれるきっかけになればというような講師のお考えがありまして、それで今後どうしていこうかというところで、教育部なので、先ほどおっしゃっていただいた図書館もそうなのですが、あとは指導室のほうに聞いてみて何か一緒にできないかということも考えていこうと今の時点では思っております。

○清水委員　　ありがとうございました。

○稲留委員長　　私から一言言いたいのですけれども、今の松田委員からのお話は、必ず

しも北部公民館の説明だけではないわけで、御意見がなければ、今、小川館長がおっしゃったようなことで、次回からというか、今後、御検討いただけるということでもよろしいですか。それとも何か御意見ございますか。では、丸山館長。

○丸山東部公民館長　この形になったのは、1館10分程度でという御提案でこのような状況になってはいますが、もう少しという話ですかね。

○稲留委員長　必ずしもそうではなくて、軽重をつけてとか、そういう感じではないですか。

○松田委員　逆ですね。10分間ということであつたら、もう既に10分間をかなりオーバーしているわけですね。

○丸山東部公民館長　各館10分、トータルで30分という話で。

○松田委員　既に30分、倍以上かかっているのではないですか。

○稲留委員長　そうでもないのではないかと。

○丸山東部公民館長　かかっていないですね。説明のほうは10分、10分、10分、トータル30分の中で枠を収めましょうということで、何回か前にこの状況になっているはずですが、今回から館ごとで一旦区切って質疑応答しましょうという話で、前までは30分通して説明していたので、それを分けているだけの話なので。

○稲留委員長　30分ずっと聞いているよりは、疲れ方が少なくなったのではないかとと思うのですが。

○松田委員　取り組まれたものをほとんど発表されているわけでしょう。だから、そこを何か焦点を絞って、好評だったものとか、逆に不調だったもの、どこが不調の原因なのか、そういったところを絞って報告していただくほうがいいのではないかとと思うのですが。

○丸山東部公民館長　これでもかなり努力して絞らせていただいて、特にこの事業等について、こういうアクション、アンケートがありました、参加していただいて、皆さんにもっと御説明したいところではあるのですが、かなり絞ってやらせていただいているところではあるのですね。

○稲留委員長　下釜委員。

○下釜委員　各企画に参加者の感想みたいなものが幾つも出てきますよね。狙いは参加者の感想を通じて、その企画の特徴を説明したいということだと思うのですが、参加者の感想というのは、我々が聞いた上で企画そのものを判断できる部分というのはありますの

で、そのところは若干絞っていくと時間的に短縮できるのではないかと思います、いかがでしょうか。

○丸山東部公民館長 そのアンケートの部分もかなりショートにして、場合によっては中身、内容をかなり省き要約をさせていただいています。本当は2名、3名と様々なお声を頂戴したところを1名とか2名ぐらいに絞ってやっているところなのです。

○稲留委員長 3か月分を1回でやっているから御無理もあるし、また、同時に各公民館の担当の方々もいろいろなことやっているわけなので、そういう方々の成果の発表みたいな感じと言ってはおかしいけれども、そういう面も全くないわけではないので、絞り過ぎて、私のやったことについて、館長さんは全然コメントしてくれなかったみたいなことになっていけないような気がするので、御意見は御意見で分かりましたので、その辺を各館長で御相談していただいて、もう一度、若干改善する点があればあるで、やはりこれが今まで考えた中では一番いいのではないかということであれば、それはやむを得ないと思いますので、そんなことでどうでしょうか。どうぞ。

○大槻副委員長 単刀直入に言うておきます。これで全部、要は東部、西部、北部、これを分けて、このように報告していただくというのは、前回まで、この会のほうで出て進んだ話なのです。単刀直入なので、もうこれしか言いませんが、だからこれが全てそのままさっさと済ませて、まとめて報告するというようなやり方の1つになっています。取りあえずそういうことです。

○稲留委員長 いずれにせよ、そういう御意見があったことも御留意していただいて、できることがあればやっていただいて、御無理であればやむを得ませんし、小川館長の初めのお話ですと、ちょっと変えられるのではないかというような感触もあったようなので、その辺、3館で御検討いただくということでいかがでしょうか。それでよろしいですか。

(「なし」の声あり)

では、そういうことにさせていただいて、次は資料6 事業報告 令和7年度について、丸山館長からお願いします。

○丸山東部公民館長 こちらの事業報告(令和7年度分)については、既に説明させていただいているところでもありますので、年度版の簡単な報告にはなります。5分程度に絞って、通しで3館長から御説明をさせていただければと思います。

○稲留委員長 では、丸山館長からよろしく。

○丸山東部公民館長 令和7年度調布市公民館事業報告について御説明いたします。資料6、1ページをお願いします。

東部、西部、北部公民館事業の総括です。令和7年度は、調布市公民館事業計画に基づき、青少年教育、成人教育、高齢者教育、家庭教育、国際理解教育の5つの学習分野を軸に、市民の学習ニーズに応える事業、地域団体との連携事業、地域の魅力をテーマとした事業などのほか、展示会、地域文化祭、公民館登録団体との共催事業などを実施しました。また、各種会議を開催し、公民館広報紙を毎月発行しました。

東部公民館は、半世紀、開館50周年という節目の年度を迎え、イメージソング、記念キャラクターちょこぼんをフル活用しながら様々な記念行事を実施し、また、桐朋女子中・高等学校が地域への貢献度が評価され青少年表彰を受賞するなど、活動する団体はもとより、地域の市民、学校と共に喜びを分かち合ったすばらしい年度となりました。

次に、2ページをお願いします。令和7年度における東部公民館の事業報告です。

初めに、青少年教育です。「親子で作る 若葉の森の子だぬきキャンドル」、東部児童館とのコラボ事業「かんたん・かわいい『ちょこぼん』のキーホルダーづくり」など、ちょこぼんを活用した東部ジュニア教室を開催しました。

次の成人教育は、3ページから6ページまでに及びますが、「10代と90代のブックトーク～絵本からその先へ」と幅広い年代を意識した事業、大絶賛であった東部公民館開館50周年記念フェスティバル「音楽と映像で祝うオン・ステージ」を地元せんがわ劇場での実施、令和8年の幕開けとして、新春コンサート「祝福～今ここにはいないあなたと一緒に」で華々しく、かつ笑いも交えたコンサートなど、講演会、体験教室、地域に関する各講座や芸術鑑賞講座や歴史講座などを実施しました。

次に、7ページの高齢者教育です。当館近くの工房主宰に講師を依頼した先ほどのミニレザバッグなどのシルバー講座を開催しました。

次に、下段から8ページの家庭教育は「親子で作る！あんよのお月見アート」などの講座を開催するとともに、夏休みイベントを実施しました。

次の国際理解教育では、現在、世界で起こっている痛ましい争いにも通じる「アメリカのいちばん長い戦争～「対立と分断」の源流」を開催しました。

次の下段から9ページの展示会は、東部公民館を支えている講師、団体が一堂に初めて集まった企画展「東部公民館サークル★ALL STARS」「東部公民館～支えてきた講師たちの作品展」、サークル合同展、さらに、ちょこぼんカレンダーを制作し、「ちょ

こぼんへの年賀状～カレンダーをGETしよう！」など、開館50周年記念事業を開催しました。

次に、10ページの諸室開放では、Wi-Fi使用可能な部屋を自習室として開放しました。

次の市民文化祭では、12ページまでわたりますが、利用団体の学習成果の発表と地域交流を目的に、東部地域文化祭を開催いたしました。

次に、中段から14ページの連携事業では、調布市防災教育の日の1事業として、当館職員が東日本大震災で被災した経験を調布市防災教育の日講演会「津波にあった家族と故郷「釜石市」～東日本大震災を振り返って～」を市立第四中学校で開催しました。その後に、受講した生徒による企画展において、調布四中作文展「津波にあった家族と故郷「釜石市」」を開催しました。

また、隣接する東部児童館、桐朋学園女子中・高等学校との連携事業の継続に加え、市内にある姉妹都市である木島平のアンテナショップ「新鮮屋」、知的障害者援護施設「すまいる」で特別にちょこぼんパンを作っていただき、出張販売を実施するなど、多くの事業を開催しました。

次の15ページの団体支援では、登録団体による公開講座を共催で開催しました。

次の中段から18ページでは、公民館運営審議会や利用者懇談会などの市民との会議、最後の広報では「東部公民館だより」を毎月発行しました。

東部公民館は以上です。

○稲留委員長 ありがとうございました。では、次に西部公民館の田野崎館長、よろしくをお願いします。

○田野崎西部公民館長 続きまして、西部公民館です。西部公民館においても、青少年教育、成人教育、高齢者教育、家庭教育、国際理解教育の5つの学習分野を中心に、地域文化祭をはじめ多種多様の講座等を実施することができました。

それでは、主な事業について説明いたします。19ページをお願いします。青少年教育では、子どもにとって興味のあることを、交流を図りながら学習する講座として、子ども料理教室Ⅰ「夏休み 親子そば打ち体験」や、下から2番目、子ども体験教室Ⅱ「日本の伝統文化 和菓子づくりとお茶会を体験しよう」は、和菓子作りを市内の和菓子屋さんから、お茶会は茶道の登録団体から指導を受け実施しました。

次の20ページの成人教育では、1つ目、谷川俊太郎の功績から日本語を見つめ直す機会

として米国人翻訳家による特別講演会を、次の21ページでは、下から3つ目、仏像や工芸品の見方を学ぶ入門編を、次の22ページでは、2つ目、「解説付き新春ロビーコンサート」と、広いロビーがある西部公民館の施設の特徴を生かした事業を実施しました。

その下、6つ記載されております参加者が体験、交流できる事業を、次の23ページから24ページには成人学級の実施内容を、そして最下段には平和フェスティバルと様々な分野の講座を実施いたしました。

次の25ページの高齢者教育では、シニアを対象に、高齢になっても地域の中で健康に生き生きと暮らすための講座として、シニア健康講座等を実施しました。

次の家庭教育では、1つ目の子育てセミナーとして「仲間と出会い、子どもと自分を育てよう」をテーマに、子育ての不安や悩みの軽減、地域の中でつながり合う仲間づくりの一助となるような講座を全8回で実施いたしました。

次に、26ページの国際理解教育では、現在の国際情勢を捉えたトランプ外交について講座を実施し、次に、その下の展示会では、市制施行70周年記念事業関連、特別講演会関連、市民協働企画等、ロビー展示を数多く行いました。

次に、27、28ページの市民文化祭では、展示やくつろぎコンサートを中心とした西部地域文化祭を今後長く続けていけるよう「世代をつなぐ文化と仲間」をテーマに実施しました。

28、29ページの団体支援ではサークル体験教室等を、30ページの会議では利用者懇談会や西部公民館利用団体連絡会等を実施いたしました。

最後に、31ページの広報ですが、「公民館だより」を毎月発行いたしました。

西部公民館からは以上です。

○稲留委員長 ありがとうございます。では、続きまして小川館長、お願いします。

○小川北部公民館長 続きまして、北部公民館です。32ページをお願いいたします。

まず、青少年教育です。「こども夏まつり2025」、親子工作教室の「親子でガラス工芸体験」、子ども陶芸教室の「粘土で作る自分の好きな動物」、次の33ページの子ども科学教室の「酸とアルカリであそぼう」など、昔遊びや作品づくり、実験など、親子で体験できる事業を実施しました。

次の成人教育では、講演会、芸術鑑賞講座、34ページの「虫はどんな花が好き？身近な生き物を観察して自然のつながりを知ろう！」「天体望遠鏡を作って月のクレーターを眺めよう！」などの立地を生かした環境講座や科学講座、「はじめての伝統工芸『七宝

焼』」「はじめてのマジック」といった文化教室などを新規で実施。そのほか、歴史講座、映画講座、健康教室などを実施しました。

また、次の35ページから36ページでは、年間を通して2つの成人学級が活発に活動し、それぞれ学びの理解を深めました。

そのほか、平和事業やコンサート「市制施行70周年記念事業 心でめくる音楽アルバム～ピアノとマリンバの調べ」も実施しました。

次の高齢者教育では、北部公民館周辺などで「シニア向けゆっくり歴史散歩」などのいきいき講座を実施しました。

続いて、37ページの家庭教育です。社会的にも話題となった闇バイト等について、「うまい話には裏があるのです」と題した家庭教育講座の実施、ファミリーコンサートや「はじめてのリトミック」などの親子ふれあい教室も実施しました。

次に、下段の国際理解教育では、まさに現在の世界情勢にも関わる「2025年、揺れる中東地域から見えるもの」などの講座を実施しました。

続いて、38ページの展示会では、北部公民館の登録団体の企画展、市主催の講座で作った作品の展示などを行いました。また、地域団体からは「市制施行70周年記念事業 上ノ原“坂”ものがたりMAP&写真展」として、上ノ原地域の70年を振り返る展示なども行いました。

次に、39ページから40ページの上段、市民文化祭では、資料に記載はありませんが、小学6年生までを対象としたわくわくまつりを実施し、上ノ原公園も含めた形でブースを設置し、スタンプラリーを行いました。

また、利用団体の日頃の学習成果の発表や展示など、観覧された皆様にはお楽しみいただき、参加された皆様には、より活気のある活動の契機となるような、また、地域交流も目的として北部地域文化祭を実施いたしました。

次に、40ページから41ページの連携事業では、市制施行70周年記念事業、地域団体との共同企画として、地域の思い出を地域の方に自由に語っていただいたり、北部公民館周辺の地域を歩こうといった事業を実施しました。また、年間を通じて「北の杜地域交流会議」を開催しました。

次の団体支援では、登録団体による公開講座等を共催で開催しました。

次の41ページの下段から42ページでは、利用者懇談会や利用団体の陶芸サークル連絡会などの市民との会議—最後の広報では、「北の杜通信」を毎月発行いたしました。

北部公民館からは以上です。

○稲留委員長　　ありがとうございました。今の年間を通しての御報告について御質問ございますか。遠藤委員。

○遠藤委員　　今回の報告には、具体的な視点としては、データとしては入っていないのですが、公民館事業に対する外国人の参加状況というのはどんな感じかなど。調布市の場合、今、多分、外国人の居住者は6,000人を超えていると思うのですが、北部公民館さんですと、掲示板等々にやさしい日本語とか、そういうことで活動はかいま見えてはいるのですが、例えばいろいろな事業とか、それから展示とか発表会とか、それに対して外国人はどのぐらい参画しているかというのは見えてこないで、何か一言でもコメントいただければうれしいと思っています。

○稲留委員長　　いかがでしょうか。では、丸山館長。

○丸山東部公民館長　　東部公民館からですが、外国人の方のカウントはしてはいませんが、事業とかについてはほとんどいないと思います。ただ、部屋を利用して、英会話教室みたいな形の活動をされていたりとかする団体はいます。

○遠藤委員　　それは先生として外国人が入っていると。分かりました。

○稲留委員長　　今のに絡んで、団体の構成メンバーとしての外国人はほとんどいないような感じは私も見ていますけれども、文化祭などで、お客さんとして来る中にはどうかだと思って。

○丸山東部公民館長　　アジア系の方は、もしかすると来ていらっしゃるのかもしれないです。

○稲留委員長　　3館、大体同じでしょうか。

○川上委員　　でも、北部はいらしていますよね。

○稲留委員長　　小川館長。

○小川北部公民館長　　北部は、先ほどおっしゃっていただいたように、やさしい日本語とかという展示もさせていただいていたのですが、成人学級に参加している外国人の方は何人かいらっしゃるというところではあるのですが、通常の事業に外国人の参加というのはほとんどないかなと思います。

○遠藤委員　　ありがとうございます。

○稲留委員長　　清水委員。

○清水委員　　今の公民館活動に外国人の参画というお話なのですが、調布市には

外国人を取り扱う部署がそもそもないというのが課題だと私は思っているのですが、国際交流協会がありますよね。だから、国際交流協会と公民館が何かしらの連携を図ることができれば、外国人住民も公民館の活動に参画するというのもかなうのではないかなと思いついてお聞きしておりました。

私、2点なのですけれども、例えば東部公民館の和室を開放する事業、夏の間、14回も開放していただいたということで、これが恐らく国際交流協会などに情報が行けば、子育て世代で参画してくる外国人もいらっしゃるだろうと思いますし、情報発信をもうちょっと工夫すれば外国人も参画できるだろうと思っています。なので、これは非常によい企画だと思っています。やはり公民館に来ていただく入り口をつくるためには、こういった自由に出入りができるという選択は本当に残しておいていただきたいと思いますので、ぜひこれは次年度も継続して行っていただきたいと要望させていただきます。

もう1点なのですけれども、シニアのスマホ教室ですね。これは、東京都からお金が打ち切られるということで、今後どうなっていくのだろうと私はこれまでも懸念しておりました。今、スマホが使えなければ不利益を被ってしまう時代に突入していると感じています。ですので、こういった高齢者に向けたスマホ教室というのは残していただきたいと思っておりますけれども、予算の関係上どうなっているのかというのがお聞きしたいのが1点。

あとは、東部に関しては、桐朋の高校生が高齢者に教えてくれるという事業をやっているのですけれども、調布の地域の御高齢の方のお話を伺っていると、娘さんとか息子さんは、調布市から出ていってしまって独立をされてしまった後は、そこにお孫さんができたとしても、かなり遠くに住まわれているので、子どもとか孫とかに教えてもらう機会がなかなか少ないといったお声もいただいております。ですので、こういった高校生が教えてくれるのだったら参加してみようかなというお声もあるのですけれども、なかなかこれが仙川だというと、もうちょっと近くにないですかというようなお声もいただいておりますので、シニア向けの高校生との連携、例えば北部だったら晃華学園だとか、西部だったら明学明治だとかということが考えられるのかどうか教えていただきたいと思っております。

○稲留委員長　いかがでしょうか。では、丸山館長。

○丸山東部公民館長　シニアのスマホの関係ですけれども、東京都が今年度の予算をつくるのですが、形を変えて様々な形でやってきています。シニアの方はもちろんですけれども、今年度は、いわゆる障害を抱えていらっしゃる方を対象にとり、いろいろなパターンがあるのですが、東京都のほうにエントリーができるものについてはエントリーしてい

きたいと思っています。ただ、東京都も年度初めだと、なかなか体制が整わない中で混乱をしているみたいなのです。館としては、夏の時期、冬の時期に合った事業が決まっていたりとかするので、年度の初めは、東京都が決まらない部分もありますので、慎重にやっていくような現状です。ただ、継続はしていきます。

特に桐朋女子についてはボランティアサークル、今回、調布市青少年教育表彰を受けましたけれども、本当に自分たちの時間を割いて対応するというのは、私が高校生の頃は、とてもではないけれどもできなかったことを、地域に還元するということについて意識が高い学校であるという認識はあるので、今後も継続していきたいとは思っています。

東部からは以上です。

○稲留委員長　では、ほかの館はいかがですか。では、小川館長。

○小川北部公民館長　私、去年が1年目だったので、様子があまり分かっていなかったというところもあり、今年2年目になるので、もう少し積極的に近隣の学校とも関わったほうがいいかなとは思っています。特に何か学校と関わって継続してやっていることが北部公民館はないので、地域交流会議という学校連絡会がありますので、そういったところで今年は少し発信して、何か一緒にやれないかなとは考えています。

以上です。

○稲留委員長　では、田野崎館長、いかがですか。

○田野崎西部公民館長　西部においても、1月から3月の御報告で申し上げた絵画の展示、それ以外に学校との連携が具体的に何かあるとは把握していないような状況なのですが、先ほどおっしゃっていたような事業について、今後検討できたらいいなと思いますので、今後対応を考えていきたいと思っています。

以上です。

○稲留委員長　では、学校の連携とか、それに絡めて外国人の方々に対する対応とか、今後とも御検討いただきまして、よろしくをお願いします。

それでは、この件はこれでよろしいですか。では、八田副委員長。

○八田副委員長　1点だけ。今、年度報告いただきまして、最後のページに、報告で使用状況等ありますよね。これは縦の様式で、毎月報告いただいているのは横の様式で同じなのだと思うのです。であれば、毎月のものも縦様式に変えていいと思うのです。この使用状況、施設別の内容が全く同じものだと思うのです。なので、見やすいとすると、わざわざ横にしなくても、これを1年通して使っていけばよろしいのではないかなというのが

1つの提案です。

最後のページの右から2列目、施設の使用状況の利用率がありますよね。何を言いたいかというと、50%を切る使用率のところの中にありますよね。これ、無理に使用率を上げるという話ではなくて、先ほど清水委員からもありましたとおり、一般開放する枠というのですか、特に和室だとかに関しては開放してもさほど問題のない施設だったりもすると思いますので、先般の審議会の中でも、今度、利用更新をインターネットで申し込めるような話もあったと思いますので、少し利用率を上げるための努力というのか、一般開放も含めて少し工夫されていくと、トータルで40%ぐらいの利用率なので、例えば年度で50%を超える利用率を目指していこうだとか、少し工夫をしていくといいのではないかなと思いますので、令和8年度の課題として頑張っただけであればいいと思います。よろしくお願ひします。

○稲留委員長　ほかに質問はよろしいですね。

(「なし」の声あり)

では、次の議題は7番の社会教育委員の話かな。資料7、お願いします。それでは、丸山館長、よろしくお願ひします。

○丸山東部公民館長　それでは、令和7年度第5回、第6回調布市社会教育委員の会議について御報告いたします。資料7をお願いいたします。

最初に、第5回です。会議日程については記載のとおりです。

議題につきましては、2、議題(1)報告事項1、実施後の意見交換を開催するに当たって、現状や今後に関する意見交換がありました。

次に、裏面、第6回です。会議日程は記載のとおりです。

議題につきましては、2、議題(1)報告事項イ、来年度から社会教育計画を単年度策定せず、教育プランに包含されることになった旨、説明がありました。

報告は以上となります。

○稲留委員長　今の社会教育委員の会議について御質問は、よろしいですか。

(「なし」の声あり)

では、次に審議事項になります。資料8、9、10、それぞれの館から、まず初めに丸山館長からお願ひします。

○丸山東部公民館長　それでは、公民館利用団体登録(新規)について御説明します。今回は(1)東部公民館1団体、(2)、(3)西部公民館2団体です。各館長から一括して説明

をさせていただきます。

初めに、東部公民館です。(1)折り紙待夢、資料8をお願いいたします。

この団体は、令和2年度東部公民館主催、シルバー教室、折り紙でおもてなしに参加した有志で自主グループを結成し活動されており、今回のサークル化への申請となりました。

指導者は、主催事業でも講師をお願いした日本折り紙協会認定講師の資格をお持ちの巽さんです。独特な感性を持ち、通常では考えられない折り方で楽しませることを考えた指導で、会員からも好評の指導者でございます。

会員数は11人、活動は月1回、サークル活動を通して折り紙の知識や技術を磨きながら会員相互の親睦などを目的としています。

1枚おめくりいただきまして、令和7年度の活動記録及び決算書と令和8年度の活動計画及び予算書です。

もう一枚めくっていただいて、折り紙待夢規約となっております。

以上となります。

○田野崎西部公民館長　　続きまして、資料9を御覧ください。(2)朗読の森をお願いいたします。

この団体は、令和5年1月、2月に実施された初めての朗読体験教室に参加したメンバーを中心に、朗読に関心のある人が自主グループを結成し活動を継続してきました。

指導者は、市内に在住のフリーアナウンサーの矢崎麻弥さんです。元北日本放送のアナウンサーで、現在は日本テレビのリポーターや大学で自主マスコミ講座、中学、高校でアナウンス指導をされている方です。

会員数は8人となります。活動は月2回、声に出して伝える朗読の楽しさを体感し、よりスキルを磨いていく、他のサークルとの交流による朗読スキルの向上や、文化祭で地域の方との交流を深めることを目的としております。

1枚目をおめくりいただきまして、令和7年度の活動記録及び決算書と令和8年度活動計画及び予算書です。

もう一枚めくっていただいて、こちらが規約となっております。

続きまして、資料10を御覧ください。(3)火曜ストレッチ&練功十八法（西部公民館）をお願いいたします。

この団体は、令和5年度、西部公民館のシニア健康講座、楽しくストレッチの参加者、有志が継続を希望し、自主グループを結成し、継続活動の後、団体登録への申請となりま

した。

指導者は、健康運動指導士、鍼灸師の山川容子さんです。健康で長生きを目指して、自宅でもできるように椅子を使ったストレッチと中国の国民体操で知られる練功十八法のインストラクターとして、体験会や練習会を主催、指導している方です。

会員数は10人です。活動は月1回、サークル活動を通して、ストレッチ、練功十八法の実践を通して、心身の健康の維持増進を図るとともに、会員相互の親睦を目的としています。

1枚目をおめくりいただきまして、令和7年度の活動記録及び決算書と令和8年度活動計画及び予算書です。

もう一枚めくっていただいて、こちらが規約となっております。

これら提出の申請書類を精査したところ、3団体全て規則要件を満たしておりますので、御承認いただきますようよろしくお願いいたします。

説明は以上です。

○稲留委員長 ありがとうございます。この3件は審議事項でございますので、この申請を受理してよろしいかどうか、皆さん、御意見ありましたら。特になければ、承認ということでよろしいですね。

○八田副委員長 1点だけ、資料10の当該申請書の中の会費の欄に、多分これ有料で、月額のところ丸が行くのかなと思いますので、後で確認をいただければ。

○稲留委員長 その箇所を修正していただいて、これは新たな団体として登録することで決したいと思います。はい。

○松浦委員 これに対して1つよろしいでしょうか。申請に関してではないのですが、この書類で、この時代、名簿をこういう場に、皆さん、電話番号まで非常に克明に書かれているので、これはお名前だけでも。いろいろお手数はかかるかもしれませんが……

○稲留委員長 私が聞いているところでは、これは席上配付で回収です。したがって、あとは出ないと。ただ、公民館としては、いろいろな連絡の必要があるから電話番号……

○松浦委員 公民館はあったほうがいいと思うのです。この場で配付の中で……

○稲留委員長 ただ、これはもう回収ですから、そういうことで。ただ、私、個人的には、自分でやったサークルについては、住所については町名何丁目までにします。そういう配慮はしていますけれども、これはここの会議だけで、皆さん持ち帰りは禁止ということですから。公民館でこんなたくさん要らないから多分消却していただくのだと思うので

すけれども、それでよろしいですね。

○松浦委員 結構です。

○稲留委員長 ということですので、御理解いただきたいと思います。

それで審議事項を終わらしまして、次は日程第3、その他ですが、記念誌の話ですね。では、東部公民館の丸山館長、よろしくをお願いします。

○丸山東部公民館長 それでは、東部公民館開館50周年記念誌「とぶと〜ぶ」について御説明いたします。

東部公民館は、開館50周年、半世紀という節目の年度を迎え、記念キャラクターちょこぼんの誕生、イメージソングを作り、せんがわ劇場での記念フェスティバル、地域文化祭では複合館の児童館、保育園とコラボした企画を初めて開催するなど、記念すべき年度を2年前から準備を開始し、館内職員はもとより、利用団体の市民、地域が一丸となって盛り上げてまいりました。記念すべき年度の最後を飾る記念誌が完成しましたので、報告いたします。

記念誌の紹介です。全編120ページで盛りだくさんの内容で、編集部員7名をはじめとした東部公民館の利用者と職員で制作しております。紙面には写真をふんだんに使用し、雑誌のように気軽に手に取りたくなるようなデザインや構成を意識しながらも、地域に根差してきた東部公民館の50年間の様々な角度からの思いや歩みを詰め込みました。これから先の人生100年時代を支え、開館60周年、70周年、さらには100周年へ歩みを進めていくための1冊に仕上がっております。

ポイントです。まず、10、11ページです。桐朋女子中・高等学校特集として、令和8年3月8日に調布市青少年表彰を受賞した、そのような歩みのところを掲載しております。

続きまして、12から15ページ、記念フェスティバル、令和7年6月14日のせんがわ劇場での実施のところを記載しております。

26、27ページ、ちょこぼん誕生秘話を掲載しております。

90から95ページ、調布市公民館及び東部公民館のデータ、歴史が一覧で載っております。

96から117ページ、主催講座一覧。

118ページには、令和7年度東部公民館登録団体一覧を掲載しております。

報告は以上となります。

○稲留委員長 本当にお疲れさまでした。何か御質問ございますか。どうぞ。川上委員。

○川上委員 編集委員に下釜さんも入っていらっしゃったということで、何か一言いた

だけたらと思うのです。

○下釜委員 編集委員は、あまり活躍していないのです。でも、月に1回ほど集まって、楽しく編集会議に参加させてもらって、非常にいい体験をさせてもらったと思っています。こんなにすばらしい本が出来上がって、見てびっくりみたいなそういう感じを持ちました。よかったです。

○稲留委員長 あとは特にはないですね。では、丸山館長。

○丸山東部公民館長 私から御紹介させていただきますと、この編集委員として市民の方、登録団体の方たちにも御参加いただいて、それが少し歩を進めて、成人学級で今年度進めていこうという話も今、出ていまして、今後どのような活動になるのか、ちょっと楽しみです。

以上です。

○稲留委員長 分かりました。こういうのをきっかけに、いい発展ができるといいですね。

それでは、次は次回の会合のお話かな。では、丸山館長、よろしくお願ひします。

○丸山東部公民館長 次回定例会の予定です。令和8年6月23日火曜日午後2時から令和8年第3回定例会を東部公民館で開催いたします。詳細につきましては、追って通知をさせていただきます。

○稲留委員長 年間の計画と同じですね。

○丸山東部公民館長 そうです。説明は以上となります。

○稲留委員長 審議会はほとんど終わったわけですがけれども、その他、何か。では、丸山館長。

○丸山東部公民館長 前回、御質問いただいた本審議会の開催における表記方法について御報告をさせていただきたいと思います。

まず、審議会の役割ですけれども、市議会や教育委員会などと同格で、重要な事項の調査や審議を切れ目なく継続している会議体となっております。協議会等のように広く意見や助言を求める会議体とは違い、4月から翌年3月までの年度で途切れることがないよう年表記となっているのが現状です。御提案いただいたことなども踏まえて、結果、諸調整をして、適切な時期に年度表記にしたいと思っています。

説明は以上となります。

○稲留委員長 ありがとうございます。では、川上委員。

○川上委員 松田さん、お疲れのところすみません。最後によろしいですか。実は私、今年の2月7日に東京都の公民館連絡協議会というところが主催する東京都公民館研究大会というのに行ってきたのです。皆さんにも多分、連絡があったと思うのですが、行ったのが私だけということで、簡単に報告するよというので、ちょっとだけ話させてください。

今年、西東京市が会場になってやりました。東京都にたくさんある公民館の中で、加盟しているところが事務局になって、いろいろな研究のテーマでやっているのですが、調布市はそこには入っていないというのが実態なのですが、参加することはできるので、行ってきました。

今年のテーマが「個人的なことが社会的なこと」に」というテーマだったのです。つまり、個人が、このことってどうなのだろうとか、何か自分だけこうなのではないかとかと思っていることは、実は社会的なことなのだ、みんなにとっても共通なことなのではないかという視点を考えてみましょうというテーマだったのです。基調講演があつて、それが泉谷閑示さんという精神科医の方の基調講演でした。その精神科医の方は、西東京市の公民館で連続の講座の講師をやっていて人気講座らしいのです。彼が言うには、公民館というのは、個人の自立と成熟を支える場、同時に人を自由にする学びの場なのだと思っておっしゃっていました。

今、朝ドラ「風、薫る」で、学ぶことは翼にもなり刀にもなるというせりふがあつて何回も繰り返されているのですが、人を自由にする、そして自立性を促すものなのだとすることを精神科医の先生は、公民館はそういう場なのだということをおっしゃっていました。

その後、長澤成次さん、調布市の勉強会にも来てくださった大学の先生ですが、彼が補足の講演をして、公民館というのは窮屈な村社会のような共同体ではなくて、一人一人、個人が自立して、公民館というところで緩やかにつながる場所なのだということをおっしゃっていました。日本は昔から同調圧力が強いとかということがあつて個人主義が成り立ちにくかったのだけれども、個人が成長するということ、でも、同時に緩やかにつながりながら、みんなで学び合っていくところというような趣旨だったと思います。

その後、シンポジウムとかもあつたのですが、そこはちょっと省略するとして、今回それに出たことで、公民館はどこもいろいろな課題を抱えていて、調布市もそうですが、こういう研究大会、横でつながるところに参加することは大事だと改めて思いました。

自分の市のことだけで精いっぱいになっていますけれども、よその市の取組とかを聞くことは、とてもいいなと思いました。稲留さんが去年、国立の講師の方を呼んでくださったということもありましたけれども、そういうことを私たちも意識していきたいと思いました。

私がエピソードとして印象的だったのは、その研究大会に西東京市の市長と教育長が来ていたのです。2人とも公民館の音楽サークルに入っていたのです。だから、御自分がサークル活動しているから本当に理解があって、音楽サークルに入っていて、つまりバンドをやっているわけです。西東京市は人口20万人で6館あるのですけれども、その6館を音楽サークルが出前コンサートとって、転々と演奏するらしいのです。それで市長と教育長が演奏するというので、そういう意味では、そういう土壌もあるし、そういう方が市長になっていらっしゃるのだということも分かりました。

あと、うれしかったことは、文科省の地域学習推進課課長補佐という人が、この大会の祝辞の中で、昨年度ですけれども、国立市が優良公民館表彰を受けているのです。その前は調布市の西部公民館でしたねとわざわざ言うてくださったのです。私、そのとき職員だったので、12年前のことなのですけれども、それをわざわざ言ってもらったのは、うれしかったなというのがありました。

この研究大会、年に1度でまたあると思うのですけれども、今回、この中からは私だけでしたが、市民の方も何人か参加していました。こういう機会、お忙しいと思うのですけれども、もしまたあったら御一緒に行っていただきたいと思いました。長くなってすみません。

以上です。

○稲留委員長　　ありがとうございました。

では、これで全ての議題は終了いたしましたので、令和8年調布市公民館運営審議会第2回定例会はこれで閉会いたします。

閉会　午後3時59分